

□ろりサキュバスと主従関係

□登場人物

ユーミ・イブ・ヴァージン

真名…ユミナ

種族…サキュバス

外見…少女。金髪と黒のゴスロリの服を愛用。

髪はウェーブボブ。胸は小さめ。お尻も小さめ。

性格…サキュバス名家の生まれ。教育によって高飛車で人間を見下している。強気な態度は怖がりな性格の裏返し。実は友達思いのいい子。話の流れで徐々に人間になれていき心を許していきます。エッチは知識だけ。

日本語の熟語大好き

口癖

拗ねたとき…ぷう

背伸びして変なお嬢様言葉が混ざる…じゃない

□あらすじ

ユーミと住宅街との出会い、そのあとお屋敷に連れていかれます。
オイルマッサージやお風呂で体を洗った後、えっちの流れになります。

……などの行間は呼吸音を強調して息づかいをリスナーが感じる演技でお願いいたします。

□シーン① ユーミとの出会い

場面：昼の住宅街のオープンカフェ前

SE:街の喧騒

マイク的位置：正面おまかせ

ユーミ「ちよつと！？ どうして？ どうして駄目なの？」

ユーミ「おかしいじゃない！ 私はこの小豆抹茶あずきまっちゃパフェが食べたい
だけなの！」

ユーミ「どうして？ これは由緒正しい私のご先祖様の硬貨こうかなの
よ？ 何で買わせてくれないの？ どうして！？」

途中で口を塞がれる

ユーミ「きいいー！ 貴方あなたなんかパパにかかれればあつという間にけ
ちよんけちよんにむぐう！」

そのまま連れて行かれる

マイクの位置…正面から遠ざかってください

ユーミ「ちょ、ちょっとむぐうう！　どこに　ちょっとちよっとお
おお！　私のパフエええええ！」

住宅街の人氣がない場所

マイクの位置…正面

ユーミ「ううう！　なによ！　なによ！　あんた誰じゃない――！」

ユーミ「私の事、ユーミ・イブ・ミッシングと知っての狼藉ろうぜきでしょ
うね！？」

【狼藉ろうぜきなんて言葉よく知ってるね】

ユーミ「え？　狼藉なんて言葉もちろん知ってるわよ。私を誰だと思
っているの！　ふふーん！　日本語沢山勉強したんだもん！　こ

んなのおちやのこさいさいじゃない。簡易、簡潔、明瞭、

しょほてき
初歩的！」

ユーミ「それにしてもなんで私パフェ買えなかったの？　へんじやない？」

ユーミ「に・ほ・ん・え・ん？」

ユーミ「し、知ってるわよ！　な、なまいきー！」

【サキュバス？】

ユーミ「え？　あ……ど、どうして？　私のことサキュバスって解ったの？」

少し小声で

ユーミ「お、おつかしいな。羽は隠してるわよね？　牙きばも見せてないよね」

マイクの位置…マイクから30cm。右を向き右に動きながら

目の前でうろうろする様子を表現します

ユーミ「どうしよう。いきなり……ばれたらまずいじゃない」

マイクの位置…左を向き左に動きながら

ユーミ「うー。ママにも叱られるかも。うう怒ったら怖いよう」

マイクの位置…右を向き右に動きながら

ユーミ「パパにも……来月のお小遣い減らされるかも」

マイクの位置…左を向き左に動きながら

ユーミ「一度帰って……だめだめこんな事ばれたら絶対ダメ」

マイクの位置…正面30cm

ユーミ「うーん」

マイクの位置…ユーミから見て右頬近接

見つめます

ユーミ「じーじー。ちょっと動かないで。じーじー」

マイクの位置…ユーミから見て左頬近接

ユーミ「じーじー。じーじー。うーん。じーじー」

マイクの位置…正面

ため息

ユーミ「ふう」

ユーミ「まあ、いいわ。ついでだし。どうせ必要だったし。

このユーミに生意気な口をきいた・し・か・え・し」

マイクの位置…ユーミから見て右首筋

ユーミ「かーっぷ！　ちゅ！　かみかみ…ん…ちゅ」

□シーン② ユーミとの契約

場面…ユーミのお屋敷の中

マイクの位置…0cm。顔をのぞきます

……は呼吸音で身近に感じさせてくださいませ。

ユーミ「これが……ふーん……人間の男か……ふーん」

マイクの位置…0cm。鼻先やほっぺ口先。正面で動きを付けてください

匂いを嗅ぐ

ユーミ「すんすん。すんすん。ん、すんすん」

ユーミ「これが人間の匂いか」

ユーミ「すんすん。すんすん。はあ。すんすんすんすん」

ユーミ「じゅる…はぁ。お、美味しそう。すんすん。すんすん。はあぁうつとり」

マイクの位置…正面30cmに離れながら

ユーミ「が、我慢^{がまん}よユーミ！ はしたないじゃない」

男目覚める

【…ここは？】

ユーミ「げ、もう起きたの」

マイクの位置…少しうつむきながら。小声で。

ユーミ「おっかしいな。すつごく噛んだからもうしばらく起きないはずなのに」

マイクの位置…正面30cm

ユーミ「まあ、いいわ。じゃあ取り合えず」

ユーミ「こほん」

ユーミ「紅茶が飲みたいわ。入れてきなさい！」

呼吸音の沈黙をお願いします。

ユーミ「……むーー」

ユーミ「紅茶が飲みたいわ。入れてきなさい！」

ユーミ「……うーー」

ユーミ「どうして??.?」

ユーミ「どうしてよおお！」

ユーミ「なんでいうこと聞かないの? 下等な人間なくせにい
い！」

ふくれっ面。ユーミの口癖

ユーミ「ぷう！」

【よしよし】

SE:頭をなでる音

ユーミ「頭なでるなー！ きーーー！」

ユーミ「もしかして……もしかして……」

ユーミ「貴方もう誰かの眷属^{けんぞく}？」

ユーミ「いや、もうそんなのどうだっていいわ！ このユーミ・イブ・ミッシングの名にかけて絶対にぜーったいに！下僕にしてあげる！ 覚悟してなさい！」

□シーン③ ユーミとマッサージオイル

場面…寝室。ベッドの上。

ユーミが背中へのマッサージします。

マイクの位置…50cmほど斜めの遠くの位置

オイルランプの準備をします

SE:オイルランプの準備音

……で呼吸音を強調

ユーミ「えーと……ん……アロマをたらしで……」

ユーミ「んっしょ…火をつけて…よし！」

マイクの位置…正面

ユーミ「その上で横になりなさい。うん。そうそう。ふふちゃん
と言うこと聞けるじゃない」

マイクの位置…正面から後方に回り込みます

背中にまたがります

ユーミ「それじゃあ俯うつむきなさい！ よつと。背中にまたがって」

ユーミ「ふふふ。情けない格好。こんな少女の下敷したじきになって恥ずかしいの？」

マイクの位置…ユーミから見て背中右耳元

ユーミ「でも貴方あなたはもう屈服くつぷくするしかないじゃない？」

【お尻の感触が】

ユーミ「え？ お尻が背中に当たって？ き・も・ち・い・い？」

マイクの位置…背中に移動 飛び跳ねて移動する様子

ユーミ「ちよっとおお！　ちゃんと集中してよお！」

ユーミ「ぷう！」

オイルを出す音

マイク…ユーミから見て背中右耳

ユーミ「いい？　よく聞きなさい？」

ユーミ「このサキュバス特性の媚薬^{びやく}入りマッサージオイルを貴方^{あなた}に塗り込むじゃない？」

ユーミ「あなたはこのユーミに身も心も奪われるの。どう？　怖い？　恐ろしい？　うふふ」

ユーミ「…：…むーなんでにやにやしてるの？」

マイクの位置…背中

ユーミ「ぷう。今に見てなさい」

ユーミ「手に取ってオイルを あ？ 冷たかった？ごめんなさい…
…じゃなくて！ つ、冷たいぐらい我慢しなさい！」

小声で

ユーミ「私の手のひらになじませたら冷たくないよね」

ユーミ「こうやって……手の中で温めて……じゃあ触るよ？」

吐息を重視。……に呼吸音を強調

ユーミ「ん……っしょ……ん……しよ……」

ユーミ「背中全体にー ん……ふ……ん……ん……ん……ん」

ユーミ「ふ……ん……ん……ん……ん……ん……ふう」

マイクの位置…ユーミから見て背中右耳

ささやき声

ユーミ「どーお？ 気持ちいい？」

ユーミ「そう。ふふよかった」

マイクの位置…背中

ユーミ「ん……ふ……ん……しょ……ん……」

ユーミ「ごつごつして……はぁ……ん……広い……ん……しょ……ふ……」

ユーミ「さわりこち触り心地は悪くないわね。うふふ。ちょうどいい堅さ」

ユーミ「さてと」

心の準備の為のわざとらしい深呼吸

ユーミ「すーはーすーはーすーはーすーはー」

ユーミ「いーい？ そのままうつ向いているのよ？」

マイクの位置…ユーミから見て後ろ右耳

耳舐め

ユーミ「えーい！　ちゅ！」

ユーミ「あーむ！　ちゅ」

ユーミ「はーむ。はむはむ……はむ」

ユーミ「か、勘違いしないでよね？　私たちの吐息や唾液は催眠効果こうかを強くするんだから」

ユーミ「えーとそうそう。増強ぞうきょう。促進そくしん。相乗そうじょう。増幅ぞうふく！」

呼吸音と沈黙の間をお願いします。

ユーミ「……ん……むー」

ユーミ「ちょっと。褒めなさいよ」

【あ、うんすごい】

ユーミ「ふう……生意気！　見てなさい！」

小声で

ユーミ「絶対にメロメロにしてやるんだから」

ユーミ「はーむ。あーむ。ちゅう。あーむ。ちゅ……ちゆる……ちゅ……あむ……ちゅ」

ユーミ「私の初めての耳キスなんだから光栄に思うのよ？」

ユーミ「あーむ……はむ……ちゅ……れう……あむあむ」

ユーミ「はあ……ん。背中のマツサージも忘れずにー。ん……ん……ふ……あーむ……ちう……はーむあむ」

ユーミ「早く虜^{とりこ}になりなさい……この下僕。れーう……ちゆる……あーむ……ちゆる……れう」

ユーミ「れう……れうれーう。じゆる……へう。ちう……ん……はむはむ」

マイクの位置…真後ろに移動しながら

ユーミ「背中のおイル。^{かわいて}乾いてきてる。ちょっと待ってて」

SE: オイルを出す音

ユーミ「オイル足さなきゃ」

ユーミ「さっきのように手の中で温めて……」

マイクの位置…上下に動きをお願いします。

ユーミ「肩からく背中にくこうやってー…… うーえーかーらーしーたーにー」

マイクの位置…上下に動きをお願いします。

ユーミ「うーえーかーらー……ん……ん……しーたーにー」

マイクの位置…上下に動きをお願いします。

ユーミ「のーばーしーてー んー……しよ……ん……ふ……ん……ん」

マイクの位置…ユーミから見て後ろ左耳に移動します

ユーミ「今度は……こっち」

耳舐め

ささやき声

ユーミ「光栄に思うのよ？ はーむ。ちゅ」

ユーミ「はーむ。ちゅ……れう……ちう……ちゅ……ちう」

ユーミ「背中もなでなでー。れーうちゅ……ちうちう……んーちゅ」

ユーミ「うふふ。気持ちよさそうじゃない」

ユーミ「はあ……あ……はあ……れーう……んふ……ちゅる……れう……ちゅ。はあ……ん……ちう……」

ユーミ「もっと奥まで舌をつつこんだほうがいいのかな……れー
うれーうれーうれ……ちゆる……ちう……はーむ……ん……ちゆ」

ユーミ「はむはむ……ちゆ……ちう……ちゆ……れーう……ちゆ……
ん……はーむ……ちう」

「秒ほどの沈黙の間を呼吸音で

ユーミ「はあ……はあ……はあ……はあ……」

耳をかんでちよつと血を吸います・

ユーミ「がり。ちゆう」

【いた！】

ユーミ「あ……ごめん。ちよつと血をすっちゃった。まだ痛いよ
ね」

ユーミ「舐^なめて血を止めるね。れーう……ちゆる……ちう……へ
う」

ユーミ「じゆる。美味おいしい……れーう。はーむちゅう……ちうちう」

ユーミ「はああ……ん……ちゅ……ちう……れう……ちゅーう」

ユーミ「この背中の出っ張り……えっと……肩甲骨けんこうこつ？ 男の人ってこんな堅いんだ」

ユーミ「ん……ん……ぬり……ぬり……」

ユーミ「オイルの効果と私の吐息といきと唾液だえき……全身で感じなさい……れーう……ちゆる……へう……ちう……ちゆる」

耳に息を吹きかける

ユーミ「ふーう」

ユーミ「リラックスしなさい？ 全て受け入れなさい？」

ユーミ「そうすればもっと私のことが好きになるわ……ん。んふ。
はあ。れーう。ちゆる……ちゅ」

ささやき声

ユーミ「このユーミの初めての下僕の手入れなんだから。ありがた
く思いなさいよね……はーむちゅ」

ユーミ「ん……ちゅ。れーう……ちゆる……はむ……ちゆる……ち
う……んちゅ」

マッサージ部位が背中からお尻の方に

ユーミ「ん……へう……ちゅ……」

呼吸音で間を作ってください

ユーミ「……ん。こほん。こ、こほん！」

【どうしたの？】

ささやき声

ユーミ「ど、どうもしないわよ！　お、お、お尻も塗らないといけないって学校で習って」

【無理しなくても】

ユーミ「む、無理じゃないわよ。この私を誰だと思っているの？　サキュバス」Sスクール卒業生筆頭なんだから」

ユーミ「ズボン……う。これ私じゃ脱がせられないから自分で脱いでよね」

SE:ズボンをずらす音

マイクの位置:背中左10cm

ユーミ「う、うわあ…男の人のパンツだ…　あ　あ　あ」

ユーミ「つ、次はパンツを……」

ユーミ「ぐくり」

【あ……】

ユーミ「ん？　くすぐったかった？　ごめん……お尻の割れ目まで
手が滑っちゃった」

ユーミ「ん……しょ……ん……ん……ん……はあ」

マイクの位置…ユーミから見て背中左耳

ユーミ「お耳も。はーむ　ちゅう……じる……ちゅ……ちう」

ユーミ「ん……がり……ちう」

ユーミ「また噛んじやったごめんあむ。れう……ちう……美味し……
ちゅる……あむ」

ユーミ「んーちゅ……ちう……んふ……ちゅる……ちう……ちゅる
れう……ほう」

マイクの位置…ユーミから見て左耳から右耳に移動

ユーミ「それじゃあ反対側のお尻も塗ってあげるー。よいしょつと」

ユーミ「左手にオイルをなじませてー ぬーりぬりぬり」

ユーミ「こっちのお耳もー……はーむあむ……ちうちゆるてんちう」

ユーミ「はーむ……れーう……ちゆる……ちう……ん」

ユーミ「どう？ マッサージだからもっと強く揉んだ方がいい？」

【……このままで】

ユーミ「ふーん。軽く触られるだけで気持ちいいの？」

ユーミ「ふふ。女の子にお尻触られて気持ちいいだなんて変」

無声のささやき声

ユーミ「もっとしてあげる」

ユーミ「ん……ん……んふ さわー さわー さわー さわー ん
ん んふ……ん」

ユーミ「お尻……オイル塗りすぎたかな。びちゃびちゃ」

ユーミ「はーむ……れう……ちゅ……ちう。んふ……ちゅう」

ユーミ「でもほんと……気持ちよさそう……ふふ。下僕の手入れ楽しいかも」

ユーミ「はーむ……ちゅ……ちう……れう。ちゅ」

ユーミ「ふふ。可愛いかも……れーう……れう……んー ちゅる……あむ……ちゅる……ちゅ」

ユーミ「……ん？ どうしたの？ 腰ういてきちゃってるわよ？」

【痛い】

ユーミ「痛いつてなにが？」

ユーミ「きゃあああああ！」

ユーミ「馬鹿^{ばか}！ 変態^{へんたい}！ 好色^{こうしよく}！ 淫乱^{いんらん}！ えーとえーとそれか

ら……ど変態いいい！ 何考えているのよまったく！」

ユーミ「マッサージはお終い！」

□シーン④ 暴走

場面…寝室

マイクの位置…後ろを向きながら

ユーミ「まったくー。下僕を作るってもっと簡単だと思っていたのに」

ユーミ「え？」

SE: もつれ合う音

襲われるユーミ

マイクの位置…正面。左右に首を軽く振ってください

ユーミ「きゃ！ ちょっと！ やめ！ やめ！ きゃあああ！ やめ！」

ユーミ「やだ！ やだ！ やめやめてええ！ やめなさい！」

ユーミ「やだあああ！ やだああああ！」

ユーミ「離して！ほんとにやだ！ こんなのやだあああああ
あ！」

【…ごめん】

涙目②になりながら

ユーミ「う、う………う……うう………う……ぐす……ぐす……ふええ」

【…大丈夫？】

まだちょっと震え声で

ユーミ「だ、大丈夫に決まっているでしょ！ わ、私を誰だと思っているじゃない？」

ユーミ「うう……媚薬^{びやく}効き過ぎちゃった……ぐう」

ユーミ「すんすん……」

呼吸音で沈黙を表現してください

ユーミ「すー……ん……」

ユーミ「ふえ？　どうしたの？」

ユーミ「んーもしかしてチャーム効いた？」

ユーミ「だったら^{うなず}頷いて？」

頷く

ユーミ「やった！　やったー！　よっしゃああー！」

ユーミ「あ……落ち着きなさいユーミ！　はしたない」

ユーミ「すーはー。すーはー。すーはー。すーはー」

プライドが高いユーミは^{けんぞく}眷属を下^げ僕^{ぼく}と言い換えます

ユーミ「私にも眷属……こほん。下僕！ 下僕ができたんだから！」

ユーミ「これでレミーにも自慢できるわね。うふふふ」

マイクの位置：0cm

ユーミ「ふんふん。じー。こうしてよく見ると愛嬌のある顔してるじゃない」

マイクの位置：ユーミからみて右耳0cm

ささやき声

ユーミ「どう？ わたしかわいい？ 綺麗？ 魅力的？」

頷く

マイクの位置：正面：30cm

ユーミ「きゃー♡ きゃー♡ きゃー♡ うっふふー」

ユーミ「よし。何から命令しよっかなー」

ユーミ「何でも言うこと聞かせられるんだよね……」

ユーミ「……」

ユーミ「……」

ユーミ「はっ！ 何考えてるのユーミ！ え、エッチなご奉仕はまだ早いんだから！」

ユーミ「で、でも下僕から……その……もらうのよね……あれ」

マイクの位置…うつむきながら

小声

ユーミ「今までヨーグルトだったけど……美味しいのかな」

ユーミ「お、落ち着きなさい。ユーミ！

冷静。れいせい

平穩。へいおん

鎮静。ちんせい

安寧！あんねい

ユーミ「すーはー。すーはー。すーはー。すーはー」

ユーミ「うわ……汗かいてる……」

ユーミ「そうだ！」

□シーン⑤ お風呂に入る準備

場面…お風呂の前

SE:シャワーの音

マイクの位置…正面

ユーミ「最初の命令はー」

どや顔で

ユーミ「服を脱がせなさい！」

ユーミ「……ん」

ユーミ「服を脱がせなさい！」

ユーミ「どうしたの？　これからご主人様の体を洗うんだからあたりまえじゃない？」

ユーミ「……む」

ユーミ「も、もしかしてチャームにかかってない？」

男..首を横に振る

ユーミ「そ、そうよね！ かかってるわよね。じゃあ早く脱がしてよ」

マイクの位置..ユーミからみて右耳

抱きしめられる

抱きしめられて背中に手を回されます。

ユーミ「わ.....あ.....うん.....ホックは後ろ.....や、優しく脱がすじゃない？」

.....に呼吸音を強調

ユーミ「ん.....ふ.....」

ユーミ「うん.....そこ。ゆっくりと下に」

SE:チャックを下す音

ユーミ「あ……う……やっぱり恥ずかしいかも……」

【いいの？】

マイクの位置…正面30cm。セリフ中に上に移動

服を脱がすので男の視点がパンツに向かいます

ユーミ「い、いいに決まってるでしょ！ ゆっくりと……おろして……ううう……はあ……きゅうううう」

ユーミ「う、う。パンツ……みてる……」

汚い絶叫

ユーミ「ぎゃあああああ！」

ユーミ「い、いきなりパンツ脱がされたあああああ！」

ユーミ「ふう……ふう……お、おちつけユーミ。こいつは下僕下僕
下僕……」

マイクの位置…正面30cm。正面に戻ります

ユーミ「ぶ、ぶらは自分でやるから！ 今度はあなたが脱ぎなさい！」

最初は自然な呼吸の間をお願いします。おおよそ5秒

ユーミ「はあ……はあ。ん……はあ……何よ早く脱ぎなさいよ……
ん……」

ユーミ「じー。じー。じー。やっぱり上から脱ぐわよね。じー
ー。じー」

ユーミ「……うん。次はズボンよね。じーじー。わ……パン
ッ」

マイクの位置…セリフの途中で右を向いてください。

ユーミ「な、何ためらってるの？ わかったわよ。横向いているから早く脱ぎなさい」

SE:脱ぐ音

小声

ユーミ「ちらっ……あ……う……う……ぬ、脱いでる……パンツ脱いでる……」

SE:コケる音

マイクの位置…正面30cm から近づいてください。駆け寄る動き

ユーミ「わ、ちょ、ちょっと大丈夫？ 慌てて脱ぐからよ」

ユーミ「ふえ？」

ユーミ「あ……あ……あああああ」

絶叫

ユミ「おちんちん!？」

□シーン⑥ 一緒にお風呂

場面..お風呂の中

マイクの位置..後ろを向いてください

男より前にいます。

ユーミ「お風呂♡ お風呂♡ 大好きなお風呂♡」

マイクの位置..顔を左右にふって見渡す様子

ユーミ「さすがお父様。改めて見直すとー。うふ。いいお風呂の

^{おやしき}
お屋敷選んできたじゃない」

ユーミ「ふー」

ユーミ「さて」

マイクの位置..正面に振り返ります。正面30cm

ユーミ「このユーミ・イズ・ヴァージンの体を丁寧に洗うのよ？
少しでも乱暴に扱ったら許さないんだから」

SE:泡立ってる音

マイクの位置：正面50cm 少し左。 右手をマイクの前に
右手を洗われます

ユーミ「う……そ、そう。右手から。はあ……やさ……しく……う
ん。二の腕に沿って……はあ……あ……」

ユーミ「わ、脇はちょっと恥ずかしいかな……あう！ くふ！ く
すぐたい！ ふー！ はあ！ ふー。だ、大丈夫だから続
けて」

ユーミ「ん……あ……ふう……」

指の股を直接指で洗われる。

ユーミ「にゅうううう！ 指のおまた指でにゅるにゅるって……あ
……あ……あ♡ う、う、て、丁寧だけど……へ、へんな感じ」

ユーミ「う、う……う……」

快感に耐えています

ユーミ「ふー！ー！ふー！ー！ふー！ー！ふー！ー！はああ！」

マイクの位置…正面50cm 少し右

ユーミ「あ？ 次？ 左腕……あ……ん……ふ……ん♡」

ユーミ「や、やさしいけどやっぱり……えっち……ん……かも……ん……ん……」

ユーミ「はああ♡やっぱり……こっちも指のおまた洗うんだ……あ……は……あ♡」

ユーミ「にぎにぎされてる♡ ん んふ♡

ユーミ「あ♡ あ♡ にぎにぎ♡にぎにぎ♡にぎにぎ♡あ♡あ♡あ♡あ♡あ……はあ♡ああ……くふう……ん」

マイクの位置…セリフの途中で離れてください

ユーミ「にゅううう♡ だ、ダメ！ もう指はダメ！ おしま
い！」

マイクの位置..ユーミからみて左耳0cm

近づかれます

ユーミ「きゃ！ ち、近い！ あ、せ、背中？ この体勢で？」

ユーミ「あ.....う.....解った.....。わかったから早く洗って.....」

ユーミ「だ、抱きしめられながら.....あ.....う.....背中触られて.....
.....う.....う.....ぞくぞくする.....う.....うう.....」

ユーミ「ちよつとあんまりくっつかない.....あ.....ん.....あ.....はあ
.....あ.....あ.....」

セリフなしの呼吸音を強調してください

ユーミ「はあ.....はあ.....はあ.....はあ.....」

マイクの位置…ユーミから見て右耳OEBに移動します

ユーミ「はあああ。あ……はあ……背中くすぐりたい……はあ……
あ……あ……はあああ」

ユーミ「う……そこ……尾^びてい骨……おしりのちかく……」

ユーミ「う……う……たしかにあ、洗わないと……」

お尻を洗われます

ユーミ「みゆうううううう！」

ユーミ「あ……はあ……お尻！ お尻洗われて……ああ……ふふ
ううつう。もまれて……」

ユーミ「ぐ、ぐにぐにされて……ああ……はあ……はあ……」

ユーミ「……っ！！ 割れ目！ そこ！ そんな奥まで！ んん
ん！」

マイクの位置：正面30cmに離れながら

ユーミ「もういい！　もういいから！　お尻はおしまい！」

ユーミ「ううーこのお……」

ユーミ「……どこみてるの？」

【おっぱい】

ユーミ「えっちい！　おっぱいじつと見ないで！」

【でも】

ユーミ「わ、解ってるわよ！　早く洗って！」

ユーミ「はう！　あん！」

ユーミ「な、何でも無いわよ……そう。やさしく……スポンジで……

……あ……ふう……ん……ん……んふ」

ユーミ「うん……右のおっぱいも……左のおっぱいも優しく……ん……んふ……ん……」

マイクの位置…身もだえします。動きを強調してください。

胸を直接揉まれて身をもだえさせます

ユーミ「きゃふ！？ 指で直接！？ ちょ、ちよつとまって！ きやあああ！ ああああ！ ひう！ ひう！ きゅうううう！」

ユーミ「ひいいい！ 乳首こりこりしてるううっう！ そこまで丁寧に洗わなくていいから！」

ユーミ「はあああ！ はあああ！ も、もう！ お、おっぱいから……おっぱいから手を離なすじゃない！」

マイクの位置…左耳OCCBに移動

抱きしめられながら洗われます

ユーミ「きゃあ！ ひいいい！ 抱きしめられてる！ ああああ！ おっぱいとお尻素手でえええはあああ♡」

【洗っているだけ】

ユーミ「ふううう！　ふううう！　確かに洗っているだけだけどお♡ああ♡……はああ！　もっと優しく洗って！　あああ！　女の子の身体そんなに揉みしだかないでええええ！　はああ♡」

【こう？】

ユーミ「くふ……ん……はあ……はあ……そう……ゆ、ゆっくり……ん……優しく……優しく……ん……くふ……ん……ん……ん……ん……」

ユーミ「そっと撫でるだけならいいから……ん……ふう……ん……はあ……あ……ん……ん」

【……】

ユーミ「おまたは駄目！」

マイク的位置…正面30cm

ユーミ「もう……油断も隙もないじゃない」

ユーミ「もう流して」

シャワーで洗い流される音

ユーミ「ぷうー」

ユーミ「いきなり一緒にお風呂は刺激が強すぎ」

ユーミ「次、頑張る」

□ シーン⑦ 搾乳手こき

場面…寝室

シーン説明…乳房を舐めさせながら手こきをいたします

SE:ベッドに座る音

マイクの位置…正面

SE:お腹が鳴る音

ユーミ「うう。お腹ぺいぺい」

SE:お腹が鳴る音

マイクの位置…セリフの途中で後ろを向いてください

ユーミ「えっとー。ヨーグルトヨーグルトー……げ！ 無い！？

嘘切^{うそ}らした？」

ユーミ「どうしよ……人間界にんげんかいであのヨーグルト売ってないじゃない？」

マイクの位置：正面30cm

ユーミ「落ち着けユーミ。すーはーすーはー」

ユーミ「こういう時の下僕じゃない」

ユーミ「げ、下僕う？」

ユーミ「こ、このユーミ・イヴ・ヴァージンにし、新鮮な……あ、あれを提供しなさい！」

【あれって】

ユーミ「あれって……その……」

ユーミ「あれよ……その……もによもによ」

呼吸で沈黙の間をお願いします

ユーミ「……」

やけくそ気味に

ユーミ「せーしよ！せーし！　あなたのおちんちんから出る奴！」

ユーミ「いきなり出せないって？　どうやったら出るのよもう！」

SE:本を取り出しめくるSE

ユーミ「もう！　ほら。ほらあ！　学校で習ったから！　この本の中から好きなの選んでよもう！」

【じゃあ…これ】

搾乳てこきは一文字ずつ発音おねがいします

ユーミ「これ？　どれどれ……搾乳てこき……」

絶叫！

ユーミ「なんて物要求してるの！？ 変態変態変態変態！」

ユーミ「わーーーー！ もーーーー！ 解ったわよ！ やるわよ！ ちゃんと習ったんだから！」

ユーミ「ほら！ ここに…横に座りなさい！」

マイクの位置…ユーミから見て左30cm

ユーミ「で、でも、絶対優しくしなさいよね？」

ユーミ「少しでも痛くしたら蹴っ飛ばしてやるんだから」

ユーミ「……わ、解ってるわよ……脱ぐわよ」

ユーミ「ん……ふ……ん……しょ……」

マイクの位置…正面から右耳元に移動してください

ユーミ「お、お願い恥ずかしいから……ぶらは貴方が外して。ホックは後ろだから」

SE:ぶらを外す音

恥ずかしさで涙目になりながら

ユーミ「あ……う……ん……ん……ん」

マイクの位置…正面

ユーミ「うう……ぬ、脱がされちゃった」

ユーミ「ちょっと待ちなさいよ！ 心の準備がいののよ？ お風呂
でおっぱい見せるのとは違うんだから！」

ユーミ「はあ……はあ……」

ユーミ「あ……あんまり見ないで……うう」

恥ずかしがりながら手をずらします

ユーミ「くふう……」

ユーミ「……う……う」

ユーミ「どう…なの？」

ユーミ「ちよっとお！　なんとか言いなさいよう」

【ピンクの乳首】

ユーミ「ピンクって言うなあ！」

【綺麗】

ユーミ「き、綺麗？　あ、当り前じゃない！　こ、このユーミのおっぱいなんだから！」

ユーミ「も、もう！　早くしてよ！」

指先で乳房に触れられる

ユーミ「きゃあ！？」

乳首だけをそつとなぞられる

詰まるような吐息

ユーミ「さ、触った……私の乳首触ったあ……」

ユーミ「やだ……えっち……指で乳首……ん！　ぐにぐにつて……
う！　う　う！　ふううう！」

暫く揉まれる

ユーミ「あ……揉んでる……揉まれちゃってる！　ん！　ふう……
はあ！　ん……ふ！　ふうう！」

ユーミ「ん……ん……ん……ん……ん！」

ユーミ「げ、下僕う！　は、はやく！　早く吸いなさいよう！」

ユーミ「はあ……はあ……はあ……はあ……はあ……」

ユーミ「私のおっぱい吸ったら興奮してせーし出せるんでしょ……
……は、早く吸って！」

マイクの位置…マイクを右胸の位置

乳房を吸われます

SE:キス音

ユーミ「くふう！」

ユーミ「右のおっぱいにきすう……」

ユーミ「んふううううう！」

ユーミ「あ……あ……あ……唇で甘噛み……くううう！　ん！　ん
ふ……ん！　ふううう！　おっぱい！　ぐにぐにつて　唇で愛撫あいぶさ
れてるう！　きやふううう！」

舐められる

ユーミ「きやああ！　舐めたあ！」

ユーミ「舐めてる……舐めてる……舌でなめ回されてる……あう！
ふう！　ふう！　ふうー！」

ユーミ「はああああ♡　舌！　舌まわしておっぱいぐにぐにするなあ！　も、もつと普通に」

ユーミ「あう！　か、かむなあ！」

ユーミ「はう！　はうううう！　歯を当てたまま舐める……なあああああ♡　はあ……ん！　くふ　ん　ん……　んん……んー
ーっ！」

ユーミ「こ、このお！　下僕う！　あんたもおちんちん……」

SE…チャックを下す音

ユーミ「だしなさーい！　えーい！」

ユーミ「ぎゃああああー！　でたああああー！」

ユーミ「わ、解ってるわよ私が出したんだもん！」

ユーミ「うううう…わ…わ…わ…」

ユーミ「あああ」

ユーミ「ごくり」

ユーミ「またおちんちん…：みちやった」

ユーミ「お風呂で見たときと形が違う？　なんかおっきい！」

ユーミ「た、たいしたことないじゃない！　全然たいしたこと…」

ユーミ「うわ…：なんか…：すご」

ユーミ「先っぽ…：うう…：膨らんで…：そこから下は…：木の棒みたい…：血管がういてて…：ごく」

ユーミ「さ、さわるよ…：触るんだから」

ユーミ「手を伸ばして…」

ユーミ「指先でそーっと……」

ユーミ「え……ぐにっしてる」

ユーミ「先っぽぐみみたい……そこからきのこの傘^{かさ}みたいに広がって……」

ユーミ「きゃあ！ 跳ねたあ！」

ユーミ「え？ この傘の下を触っただけだよ？」

ユーミ「もう一度……指先で……っ……うーわ。わ。わ。わ
ー」

ニヤニヤしながら

ユーミ「ふーん。そうなんだ」

マイクの位置…左耳元

ささやき声

ユーミ「この傘かさの下した……私の指全部使って擦こすったらどうなるのかなー」

【きついかも】

ユーミ「だーめ。いくわよ……」

ユーミ「指でぐにぐにぐにぐにー！」

ユーミ「こしょこしょこしょこしょおー！」

ユーミ「んふ♡ す、すごい反応。いいんだ……あは♡ こしょこしょがいいんだ♡」

【もうちょっと優しく】

ユーミ「だーめ♡ ほらおっぱい吸ってなさい」

マイク的位置…左耳元

ささやき声

ユーミ「もう一度してあげる……」

ユーミ「傘の裏をー　こしよこしよこしよこしよこしよこしよこしよ！」

ユーミ「はあ……はあ……はあ……すごい反応」

ユーミ「ふふふ。ちよつと調子出てきたかも」

おっぱいを勢いよく吸われます

ユーミ「ひやあああん！ あ！ あ！ 吸ってる！ またおっぱい吸ってる！」

ユーミ「へ……変態。私の見た目人間で見たらちっさいよね？　そんな女の子のおっぱい一生懸命いっしょうけんめいすうなんて……あ……あ……あ
う！　ん！　ん！　ん！」

マイクの位置.. 左耳元

ささやき声

ユーミ「もうちょっとやさしく吸って……ん……ん……ん……ん♡」

ユーミ「傘の裏をすっすっすっすっ……ん……ん……ん……ん……あはあ♡」

ユーミ「ま、負けない！　ちよつとまってなさい……手のひらをれーうれうれう唾液で濡らして……れーうれう。んーちゅれうれう」

マイクの位置…左耳元

無声のささやき声

ユーミ「しこしこしてあげる」

ユーミ「このユーミの天然唾液てんねんだえきローションでおちんちんぬるぬるに
してやるんだから」

マイクの位置…右胸をマイクの位置

ユーミ「こうやって指を絡からませて。わ……おちんちん……棒の所……
…こんなに熱いんだ……それに……固い……」

ユーミ「えっとそれから……」

ユーミ「こう上下にさするんだよね？」

ユーミ「うえに……したに……うえに……したに……」

ユーミ「あ……あん……ううう。ま、負けないんだから。絶対せー
し出すんだからあ！」

ユーミ「うえに……したに……うえに……したに……くふう！」

ユーミ「うえに……したに……うえに……したに……ん……ん……
ん……」

ユーミ「ん……ん♡……傘のうらっかわに指が当たると乳首すっこ
い吸ってくる……ん！ くふう！」

ユーミ「うえに……したに……うえに……したに……ん！ ん！
ん！ ん！ ん！」

マイクの位置…左耳元

ユーミ「お耳も……あーむ……はむちうれうちゆる」

ユーミ「はあ……はあ……はあはあ……れーうちゆる……ちうちうちゆる」

ユーミ「もうここが弱いつて解ってるんだから……上にシコシコするときにぎゅって力入れてあげる。キノコの所に当たって気持ちいいでしょ？」

ユーミ「れーうじゆる……ちうちう……ちう……ちう……ん……ん」

ユーミ「しこしこしこしこ……ぎゅっ　ぎゅっ　ぎゅっ　ぎゅっ！
こしこしこしこし」

ユーミ「あーむちゆる……ちうちうれう……ちう しこしこしこし
こぎゅっ ぎゅっ ぎゅっ ぎゅっ！」

ユーミ「はあああ♡ おっぱいすっごい吸ってるう！ あはあ♡」

ユーミ「あーむ♡ちゅーう♡れーう。ちゅ。ん ん ん！ ん！
くふ！ ん！ ん！ ん！ んんんん！」

ユーミ「はあ！ はあ！ 初めてでも解るよ。いくんでしょ？ い
くのよね？」

ユーミ「あーむちゆるちゆる♡ ん♡ ん♡ ん♡ ん♡ しこし
こしこしこ ぎゅっ♡ ぎゅっ♡ ぎゅっ♡ ぎゅっ♡ しこしこ
しこしこ ぎゅっ♡ ぎゅっ♡ ぎゅっ♡ ぎゅっ♡」♡

ユーミ「あ！ 私もおっぱい！ 痺……れ……て。ん！ ふうう！
あ！ あ！ あん！ ん！ くふう！ ん！ ん！ ん！
ん！ ん！ はあああ♡ しこしこしこし！ しこしこしこ
しこしこしこ ん！ ん！ ん！ ん！ いって！ いって！
もう出して！」

ユーミ「これでどうだぁー！ おちんちんぎゅーーーーー！ ぐにぐにぐにぐにぐにぐにーーーー！」

射精

マイクの位置：正面30cm 驚いて移動

ユーミ「きゃあ！ で、出た！ 出たあ！ わ、わ。噴水ふんすいみたい：…どくんどくんって手の中で脈打みやくってる！学校で習ったとおりだえ、と、止まらないの？ これ」

【きついから手を離して】

ユーミ「きついのか？ ご、ごめん！ て、手が固まっておちんちん握にぎって離はなせないよう…：…きゃあ！ 顔に飛んできた！」

ユーミ「ぺろ…：…あ…：…やだ…：…これ」

ユーミ「おいし…：…」

ユーミ「……は……ん」

ユーミ「手に沢山付いて……ぺろ……ちゅ……ぺろ……こく」

ユーミ「……ん……はぁ」

ユーミ「おいし」

□ シーン⑧ えっちその一

場面…寝室

初夜

マイクの位置…フェラの位置

ユーミ「えっと……」

ユーミ「ここ……かな……」

ユーミ「あつた……」

SE: チャックの音

ユーミ「わ……出てきた」

ユーミ「ごくり」

ユーミ「まだちっちゃいわね」

ユーミ「んー。どうやったら出せるんだろう」

ユーミ「つんつん……さわさわ」

ユーミ「やっぱこれだけじゃだめか」

ユーミ「あれ？ 今ちよつとピクツって」

ユーミ「んー。さわさわ。さわさわ」

ユーミ「さわさわ……さわさわ……」

ユーミ「ん……なんだろ……うううう」

ユーミ「サキユバスの血が騒いじゃってる……」

ユーミ「もう」

ユーミ「我慢できない」

ユーミ「起きなさい下僕……起きてた？ そう、なら話早いわ」

ユーミ「襲っちゃうから……もう……我慢できないから」

ユーミ「おか……すね……」

ユーミ「口を開けて……れーー 私の唾液だえき飲んで？ れーー」

ユーミ「ふふ。いいこいいこ。チューしてあげる」

ユーミ「れーう……ちゅう……ちう……れう……じゅる……ちう」

ユーミ「はじめてのキス……光栄に思いなさい？ れーうちゅるじるちうちう！」

ユーミ「はふ！ 唾液だえき美味おいし……すごい生氣……れうれうちゅ……ちう」

マイクの位置…右耳元

ユーミ「遠慮せずにもっと舌を突き出しなさい。食べられないじゃない」

ユーミ「そうそういただきます。あーむちゆる……ちう……じる
……ちう……ちゆる……ん……ん……ん」

ユーミ「キス凄い……れうちゆる……じる……ちう……ん……ん……
……ちゅう……ちう」

ユーミ「美味しい……美味しい……貴方もほら……私の舌を吸って
よ」

ユーミ「れう……じゆる……ちう……れう……ちゅ……んふ……ち
ゆる……れう」

ユーミ「んんん！ 舌すわれるの好きい！ れーう♡ちゅ……ちう
……じるちゅ……へう……」

ユーミ「唾液だえきと唾液が混じり合ってジュースみたい……れう……じ
ゆる……ちう……ちゆる……ちう……ん……ん」

ユーミ「あ……お尻触ってる……いいよ……大切な初夜なんだから
……自由に触らせてあげる……れう……ちゅう……れう……んふ」

ユーミ「ん……ちゅ……ちう……ちゆる……ぷは！」

マイクの位置…ユーミから見て左耳元

ユーミ「はぁ……はぁ……はぁ……はぁ……もう脱いじゃうね」

マイクの位置…正面30cm

ユーミ「ん……しょ……ん……パンツも……ん」

呼吸音で5秒ほどの間を作ってください

ユーミ「……すう……はぁ」

ユーミ「見て……」

ユーミ「しっかりと見て」

ユーミ「私の生まれたままの姿」

ユーミ「ねえ……ちゃんと見て……さっきみたいに褒めて」

【綺麗】

ユーミ「ふふ……うれし」

マイクの位置…左耳元

ユーミ「さっきみたいに……おっぱい吸って欲しいな」

ユーミ「はぁん♡」

ユーミ「ふー！ー！ ふー！ー！ー！」

ユーミ「ん♡ 慣れたらこれ……好き♡」

ユーミ「おっぱいにチューされるの好き♡」

ユーミ「上手にキスできたご褒美よ……耳にキス……はーむ♡
れ
う……ちゆる……ちう……ちゆる……れう……ちう」

乳首を甘噛みされる

ユーミ「はう！ 乳首……歯が当たって……♡ んー！ はー
む……ちゅう……れう……ちゅう……ちゅう……ちう」

ユーミ「くふう！ あは！ ん♡でもこれ……くふ！ 好きかも……
…ん……ん……そう……」

ユーミ「おっぱいとお耳のなめ合い……好き……かも……くふ……
ん……ああ……はああ……ああ」

ユーミ「ん……もう。片方のおっぱいも手で揉むなんて欲張り……
んふ……れう……ちゆる……ちう……ちゅちゅ……れう」

ユーミ「ん……ねーえ……ん」

ささやき声

ユーミ「反対のおっぱいは吸わなくていいの？」

マイクの位置…右耳元

ユーミ「はう！ ん！ くふ♡……あ♡ は♡ 左のおっぱいも好
き♡ くふ♡ ん……上手……やさし……あ……ん……ん」

ユーミ「れーう……ちゆる……ちゆる……ちうちう……はーむ……ちゆる……ちう……ちゆる……ちう……ちゆる……ちう」

ユーミ「あああ……おっぱい……わたしのおっぱい……赤ちゃんみたいに吸われちゃってる……はふう♡ あああ♡ はあああ！ん！ はああああ♡ れーう……ちゆる……ちゆる……ちう……へう」

ユーミ「は……は……」

ユーミ「ん……ねえ……次は……次はどうしたい？」

ユーミ「お尻？ キス？ おちんちんしこしこ？」

右耳に息を吹きかけます

ユーミ「ふー……」

ユーミ「したいこと言って？ お願い」

【……】

ユーミ「あ……」

ユーミ「わたしの……おまた触りたいの？」

ユーミ「ん……」

ユーミ「どうしよっかな……ふふふ」

ユーミ「ん……もう……お腹撫でてる」

ユーミ「そんなに触りたいの」

ユーミ「……」

ユーミ「いいよ」

ユーミ「私の一番大切なところ触って？」

ユーミ「……でもやさしくしてよね？」

呼吸音で沈黙の間をお願いします

ユーミ「……ん……ふ……」

ユーミ「んー！ー！ー！　くふう！」

ユーミ「触れられただけでぞくってしたあ！」

ユーミ「あ……くふ！　はあ……ん……うにゆううう……変な声で
る……」

マイクの位置…キス

ユーミ「おかえし……れーう……ちゆる……ちう……ちう……ん♡
ん　んふ」

マイクの位置…左耳元

ユーミ「はあ　はあ　そう……優しくさわって……はああああ♡
うん……なぞられるの……気持ちいいかも」

マイクの位置…キス

ユーミ「んーちゅ……れう……ちゅ……ちゅる……ちう」

ユーミ「えっと……ここ……かな……あった」

チャックを下ろす音

マイクの位置…右耳元

ささやき声

ユーミ「私もシコシコしてあげるね。一緒に気持ちよくなりましたよ？」

ユーミ「はーむ♡ ちゅる……ちう……ちう んふ♡ れう……ちゅる……ちう……ん♡ん♡ ん♡ん♡ ん♡」

ユーミ「んー！？ そこお！ クリトリスうううう！ 押しつぶされるとおおお♡ にゃああああ♡ お耳なめれない！」

マイクの位置…キス

ユーミ「ま、負けない！　ちゅーう！　ん！　ん！　んふ！　しこ
……しこ　しこ……しこ……れーう♡ちゆる♡　ちゅ♡　ちゅ♡
ふわああ♡　はああああ」

ユーミ「んふ♡　ん　ん　ん♡　ん♡　んーーー！」

ユーミ「き　き　き　き！」

ユーミ「気持ちいいいい！　ひいいいい！　れーうちゆる♡ちうち
ゆるじゆるちう　ん！　ん！ん！　ん！　ん！」

マイク的位置…左耳元

ユーミ「はあああ！　だめえ！　あ！　あ！　はあああ　同じリズ
ムですっすって！　すっすってされると　ん！　ん！　くふ！
あ！　あ！　あ！」

ユーミ「どんどんぎ持ちよくなるからあ！　あ！　あ！　あ！
あ！　絶対に！　絶対に今くりちゃんつまんじやだよ！？」

ぎゅって強くつままれる

ユーミ「きゃああああ！　だめええええ♡ああああ！！！」

ユーミ「い、い、い、い！！　いっちゃうううううう　♡　はあああああああ」

ユーミ「ひ！　ひっく！　ひっく！　んっく！　おおおおお！」

マイクの位置…正面に移動しながら

ユーミ「はあ……はあ……え、うそ……」

ユーミ「このユーミともあろう者がなんて声だしちゃってるのよ！」

ユーミ「し、しかも……いかされちゃった……いかされちゃったよう……」

ユーミ「うえーん　恥辱、痴態、失意、ハラキリいーせつぶくうーぶううううううう！」

□ シーン⑨ えっちその二

場面…寝室

初夜の続き

マイクの位置…正面

ユーミ「で、何であんたは出してないの？」

ユーミ「いかされっぱなしなんて絶対絶対許さないー！^{ぜったいぜったい}」

マイクの位置…フェラの位置に移動しながら

ユーミ「ちよつとそこに寝るのよ。ん？ すんすん……わ。凄い匂い」

ユーミ「すんすん……すんすん……はああうつとり」

ユーミ「お、美味しそうじゅる」

ユーミ「い、いいい？ 今から直接私のお口で貴方^{あなた}の精気を食べる

んだからじっとしているのよ?」

【それってフェラ】

ユーミ「ふえ、フェラって言うなあ!　ばかあ!」

ユーミ「すんすん……すんすん……ぺろ……ん……なんかしょっぱい」

ユーミ「絶対にせーしお口に出してもらうんだから。お腹もぺこぺこだし」

ユーミ「んーと……そういえばこの傘の裏っかわ気持ちよさそうだったわね」

ユーミ「ここ……に……れう」

ユーミ「わ」

ニヤニヤと笑いながら

ユーミ「ふーん。やっぱりいいんだ」

ユーミ「この傘の裏を指じや無くー今度は……んーちゅ……ちゅ……唇でちゅ……んふ♡　ちゅ……ちう……んーちゅ」

ユーミ「舌先でー　触^ふれ^れち^ちや^やう^うよ？　見てなさい？　れーー

ユーミ「れろん♡」

ユーミ「ふふふ。貴方の身体震^{ふる}えるの解った。れろん♡れろれろ……れー♡れろれろ♡」

ユーミ「傘の上もー　れー♡れろ♡　舌先でなめ回してあげるれー♡れろ♡れろ♡れろ♡れー♡」

ユーミ「ふふ。先端のおしっこの穴にーキスしてあげる♡　んーちゅ♡　もう一度ちゅ♡」

ユーミ「あ、これ学校で習ったんだった。き・と・う・ぜ・め？　だっけ」

ユーミ「ふふ。ちゅ……れろん♡れろ♡れろ♡れろ♡れー♡ちゅ

♡ちゅる♡ちゅる」

ユーミ「食べてあげるね♡ 亀さんだけをーむ♡ 口にふくんでーはーむ♡」

ユーミ「んーちゅ♡ れーう♡ んふ♡ おくひのなかにいれはまー 舌でなめ回してあげる」

ユーミ「れーれう♡れうれう♡へう♡れーうれう♡れろれろれーう♡はーむ♡ちゅーう♡んふ」

ユーミ「このままー 飴ちゃん舐めるように転がしてあげるね♡れろれろれーう♡ちゅる♡じゅる♡ちゅる♡れーす♡ ちゅる♡」

ユーミ「ん♡ ん♡ んふ♡ じゅる♡ あは♡ 匂いもすごい。

精気の匂いだ……ちゅー♡ちゅるじゅる♡」

ユーミ「このままおくちれー 亀さんをぐちゅぐちゅに押しつぶしながらー吸ってあげるね」

ユーミ「じゅる！ ぐちゅ！ じゅる！ じゅる！ じゅるじゅる！ れう！ じゅる ん！ ん！ ん！ じゅる♡ じゅるじゅる

る！　ちゅうううう！」

ユーミ「はあ……はあ……気持ちいい？　そう。うふうふ」

ユーミ「……でも、出ないわね。あ、亀頭攻めだけじゃでないんだっけ」

ユーミ「じゃあ……こう？　しこ……しこ……しこ……しこ」

ユーミ「うわ……竿のところがっちがっち」

マイクの位置…右耳元

ユーミ「いまから亀頭を私のこのちっちゃな口でぐちよぐちよにし
ながら……竿をしこしこしてあげる」

マイクの位置…フェラの位置

ユーミ「あーむ♡じゅる！　じゅる　ん！　ん！　じゅる！　じゅ
る！　じゅる！　ん！　ん！　ん！　しこ……しこ……しこ……し
ゅる……ちうじゅる！　ん！　ん！　ん！　ん！

んんん！　けほ！　こら、腰つき出すな！　もう……じゅる♡ち

う！　ちう！　じゆる♡　ちう！　ちゆる……ちう♡　ちゆる♡
ちう♡　ちう♡」

ユーミ「んふ♡　可愛い喘ぎ声♡　もつと聴かせて？　れーう♡じゆる♡ちゅう♡じゆる♡ちう♡チュ♡ん♡じゆるちう……ちゅちう。
んふ」

ユーミ「あ……ちゅ……ん……来てるの解る……ちゅ……ちゆる……
…♡

じゆる♡　ん！　ん！　ほら！　いきなさい！　ちゆる！　じゆる！　ん！　ちゆる！　じゆる！　出して！　出して！　ちゆる
じゆる　ちうちう！」

ユーミ「しこしこしこしこしこしこしこしこ！　ん！　ん！　ん！
ん！　ん！　じゆるじゆるちゆる♡じゆる♡ちゅう♡ん！　ん！　ん！
ん！」

射精

マイクの位置…距離を取って動きをつけてください

ユーミ「んーーーーー！???」

ユーミ「つく！　こく！　んつく！　んつく！　こほ！　じゆる♡
ちゆる♡」

マイクの位置…正面

ユーミ「はあ……はあ……じゆる……ぺろ……ちう」

ユーミ「こんなに沢山♡　美味しい……美味しい……はうーうっと
り」

ユーミ「舌にからまっへ♡ぺろちゅう♡ちう♡じる♡んふ♡ん」

ユーミ「ふふ。これで引き分け……はあ……はあ……ふう」

ユーミ「……はあ……はあ」

呼吸音で10秒ぐらいの間をお願いします

ユーミ「……はあ……はあ」

ユーミ「……ん」

不満そうに

ユーミ「んー」

ユーミ「んー！」

【どうしたの？】

ユーミ「ぷううううう！」

ユーミ「み、見たら解るでしょ？ 女の子が男におまた開いて横たわっているのよ！？」

ユーミ「もうサキュバスの血が騒いじゃって。ああああ！ が、我慢できないの！ ここまで言わさないでよばかあ！」

抱きしめられる

マイクの位置…左耳元

ユーミ「はああああ！ 抱きしめられちゃった……あ……あ……」

ユーミ「全裸で抱き合うのって……あは♡すごい♡はああ♡」

ユーミ「あ♡あ♡あなたの精子でわたし♡もう♡すっごく敏感にな
って」

ユーミ「ぎゅっとされるだけで乳首が胸板に擦こすれて……お腹も熱く
て……」

マイクの位置…キス

ユーミ「むぐう♡へう♡キス好き♡へう♡れうちゆる♡じる♡ちゅ
んふう！ お尻揉まれると♡あづい！ あづいよう！ お尻ぎゅつ
と握られると身体全部あづい♡」

ユーミ「れうじゆる♡ちう♡ちゆる♡くふ♡ちゆる♡れう♡じゆる」

ユーミ「あああ♡お腹におちんちん……あたってる♡うれし♡れう
ちゆるちう♡ちう♡ちうちゆる♡ちう♡」

【いい？】

ユーミ「うん！ うん！ もういれていいの！ 早く！ 早くう！
お願い！」

【下僕が入れていいの？】

ユーミ「い、意地悪しないで！ 下僕のおじんぐださいいい
い！」

挿入

マイク的位置…左耳元

ユーミ「にやあああああああ！」

ユーミ「お、おぢんぢん……くふ！ はいって……ん！ くふ！」

【大丈夫？】

ユーミ「ん！ ん！ だ、大丈夫だから！ ん！ ん！ くふ！？
ん……ん！ き、きついけど……」

ユーミ「でもね？　でもね？」

ユーミ「おまたの奥……切ないよう……奥う！　奥う！　ぐりぐり
ってしてって言ってるの！　ついて！　ついて！　ついてえええ」

ユーミ「はあああああ！　奥まできたあああ♡」

一秒に一回ぐらいのピストン

ユーミ「あ！　あう！　あ！　あ！　あ！　あ！　あ！　あ！　あ！
あ！　あぐう！　ぐ！　ぐ！　ん！」

ユーミ「おちんちん……入れられてる……出たり……くふ……入っ
たりしてる……」

ユーミ「あああ……せつくすだ……わたし……人間とセックスしち
やってる……う……う……う……涙が」

マイクの位置…キス

ユーミ「んふう！？　ちゅーう♡ちう♡　れう♡　ちゆる　ちう
ちゆる」

ユーミ「キスしてくれるの？ やさし」

マイクの位置…左耳元

ユーミ「でもねもう本当に痛くない……これはうれし涙」

ユーミ「だからね……」

ユーミ「貴方のおちんちんとユーミのおまた一緒に溶けちゃうぐら
いぐちゅぐちゅに擦って一緒に気持ちよくなりましょう？」

ユーミ「はああああんん！」

一秒に一回のピストン

ユーミ「ん！ ん！ ん！ くふ！ ん！ ん！ ん！ んん♡
ん！」

マイクの位置…正面。軽く首を振りながら

ユーミ「はああああ♡気持ちいい！ 気持ちいいよおおお！ あ！

あ！ あ！ あ！ あ！ あ！ あ！

ユーミ「お♡ お♡ お♡ お♡ お♡ おまたのなか擦られて…
…おじんじんで擦られて。あ！ あ！ あ！ あ！ あ！ 中がめ
くれるうう♡」

ユーミ「きやうう♡ おっぱい！ おっぱいぎゅって握られて
る そのまま お♡お♡お♡お♡お♡おぢんぢんがあああ♡あ♡
あ♡あ♡あ♡あ♡」

ユーミ「おちんちん中で擦こすられて！ ん♡ん♡ん♡ん♡ 貴方の腰
が私のお尻に当たって ぱんぱんって！ ぱんぱんって！ あ！
あ！あ！あ！あ！

ユーミ「ああああ♡ き、き、きもちいいいいいい！」

【もういく！】

一秒に2回のピストン

ユーミ「きやあああああ！ あ！ あ！ いくんだ！ いくんだあ

あ！ あ！ あ！ あ！ あ！ あ！ あ！

マイクの位置…左耳元

ユーミ「ん！ ん！ ん！ ん！ ふふ！ こんなちっちゃい女の子の中に出すんだ！ あ！ あ！ あ！ はああ！ おちんちん気持ちよくなってせーし中に出したいんだ！ へ、変態変態変態変態♡ あ！ あ！ あ！ あ！ あ！ きやああああ！」

ユーミ「あああああ！ いくいくいくいくうううううう！ んー！」

ユーミ「っは！ は！ はあ！ は！ は！」

ユーミ「は……は……あ……」

ユーミ「え……あ……まだおつき……ひゃん♡」

マイクの位置…左耳元

ユーミ「きやああああ！！ 今抱きしめちゃだめ♡ 敏感になってるから！」

ユーミ「いぐのいぐのいぐのおお♡ 思いっきりついてついてついてえ!!!!!!」

一秒に二回の早いピストン

ユーミ「あ！ あ！ あ！ あ！ あ！ あ！ あ！ あ！
あ！ あ！ あーーっ いぐううううう♡」

ユーミ「お♡おっ♡おほ♡おおお」

ユーミ「ながのぬるぬる……さっきのヌルヌルかいまのヌルヌルかわがんだい……お腹の中きぼちいい♡ はあああ♡」

マイクの位置…正面

ユーミ「このままキスして♡ちゅー♡はーむ♡ちゅー♡れー♡
♡ちゅー♡れ♡じゅる♡はーむあむちゅ♡ちゅちゅ♡んふ」

マイクの位置…右ほっぺ

ユーミ「素敵素敵♡ほっぺにちゅー♡ん♡ちゅー♡ちゅちゅ

マイクの位置…左ほっぺ

ユーミ「こっちにもちゅー♡♡♡ちゅー♡♡♡ちゅ♡♡♡好き好き♡んーちゅ」

マイクの位置…正面首を嬉しそうに振りながら

ユーミ「はぁ…はぁ…え、え、えへへへへ」

ユーミ「し、しちゃった…えっちしちゃった！ きゃーん♡ きゃーん♡ これでーわ・た・し・も一人前なんだからー！」

ユーミ「やーん顔がにやけるー♡ こーらユーミはしたなーい♡」

呼吸音で10秒ぐらいの間

ユーミ「……は……は……んふ」

ユーミ「……ん？」

ユーミ「ちょっと。どうしたの？」

ユーミ「こんな少女に……しちゃったこと後悔？　ばっかじゃない？　私サキュバスよ？」

ユーミ「まあ、たしかにこんな小さな見た目の女の子におちんちんぎんぎんにしてがん突きしたら変態じゃない？　くすくすくす」

ユーミ「ふふ……もう……」

ユーミ「う・そ・よ。へ・こ・ま・な・い」

ユーミ「それにね？」

照れながら小声で

ユーミ「これからずっと一緒なんだから……だからその……えっと……べつにもっと……貴方なら変態なことしてもいいんだから……興味あるし……もによもによ」

ユーミ「な、なんでもない！」

ユーミ「こほん」

マイクの位置…右耳元

ユーミ「あなたは私の下僕。これからもずっと一緒なんだからね」

□ シーン ⑩ えびろーぐ

場面…朝。寝室

後背位セックスからの開始

マイク的位置…後ろを向いてください

ゆっくりとしたスローエッチ

ユーミ「あは♡ん…ん…んう ん ん ん♡」

SE:キス音

ユーミ「もう♡そんなに背中にキスう…この格好好き？ お尻も見えるから？ ふふ」

ユーミ「わんわんスタイルー わんわん♡わんわん」

ユーミ「ん♡ん んふ ん ん♡ あん♡ ん ん んん ふー
ー！ ふー！ んふう♡」

ユーミ「こんなに夢中になってくれるなんて…… ん ん なんて…… ん ふ。私もやるじゃない？ ふふ」

ユーミ「ん♡ ん♡ んふ♡ ん♡ ん♡」

ユーミ「はあ♡ ん はあ♡ ん ん♡ んふ♡ あん♡」

ユーミ「もう♡日差しがカーテンから…あ あ ん ん んふ♡」

ユーミ「一晩中♡ あはあ♡ ん♡ ん♡ ん♡ んふ ん ん」

ユーミ「あは♡ うれし♡ 気持ちよくなってくれてるの♡」

ユーミ「ん♡ ん♡ ああ♡ ん♡ んふ♡ はあ♡ はあ♡ ああ♡」

ユーミ「あ……出るの？ いいよ♡出—し—て♡ ん♡ ん♡ ん♡」

ユーミ「あ♡ んっ—！—！！♡ はあ……はあ……はあ♡」

ユーミ「ふふ。どぴゅどぴゅ出てる。感覚でわかる♡ ん……ふ……あ……ん！」

小声で

ユーミ「わたしも軽くいっちゃった」

マイク的位置…前と後ろに動きをつけてください。

ユーミ「こうやってー腰を動かしてー。ふふ。膣^{ちつ}でおそうじー♡
ぎゅっ♡ ぎゅー♡ ん♡ ん♡」

ユーミ「へへ。勉強してて良かった。あ……♡ ら抱きついちゃって……そんなに気持ちよかったんだ」

マイク的位置…振り返りながらキス

ユーミ「もう♡ 本当にえっち♡ サキュバスの下僕の素質あるわよ
はーむ♡ ちゅん♡ あー♡ ん♡ ちゅ」

マイク的位置…正面

ユーミ「んー？　どうしたの？」

【ごめん】

ユーミ「自分だけいっちゃったのでごめん？」

ユーミ「ふふなーにそれ。いきいたいときいいのよ。私の栄養補給なんだから」

ユーミ「それに……私も今いっちゃってたし……昨日だけで数え切れないくらいかさねちゃったしにもよ……」

ユーミ「あれ？。そう考えると。ひょつとして負け越してる？　うそ！？　私サキュバスなのに！？　下僕に？　人間に！？」

ユーミ「ううう。がうー！」

マイクの位置…右首筋

ユーミ「かぷー！　がぶー　がぶー！　かみーかみー！」

【いたい】

ユーミ「我慢しなさい！　がぶー　がぶー！　かみかみー」

ユーミ「反省した？　反省した？　サキュバス」スクール卒業生
筆頭このユミナ様に勝とうなんて許さないんだから」

小声で

ユーミ「絶対に絶対に……誰にも渡さないんだから。貴方はこのユミナのものなの」

ユーミ「うん……ユミナよ……私の真名……しんめい……本当は教えちゃ駄目な
んだからね」

小声で

ユーミ「大切な人以外には」

マイクの位置…正面

ユーミ「こほん」

ユーミ「これからもずっと私についてくるのよ？ 覚悟してなさい
よね」

□BGV

マイク位置：右耳元

耳舐め

30秒

ユーミ「あーむ。ちゅ。れーうちゅ。ちゅ。んーちゅ……れうれうちゅ。ちゅーるちう。ちゅる。ちうちうじゅる。ちゅ。はーむ。ちゅ」

マイク位置：正面0cm

ユーミへの身体へのキス音

男から女へのキス音なので吐息無しでお願いします

ユーミ「ちゅ……ちう……ちゅる……ちゅ……ちゅ……ちゅ……ちゅ……ちゅ……れう……じゅる……ちゅ……ちゅ……ちう」

マイク位置：正面30cm

寝息ループ

一分

半秒に一回の寝息になります

ユーミ「すー。すー。すー。はー。ふー。すー。すー。
ふー。ふー。すー。すー。ん……。すー。ふー。
すー。ん……。すー。はー。すー。すー。はー」